

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 1 月 2 2 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 1 4 0 6 7
Application Number:

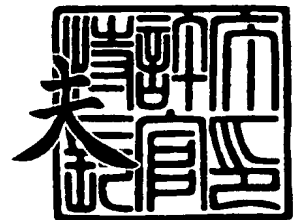
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 0 1 4 0 6 7]

出 願 人 コ ク ヨ 株 式 会 社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 8 月 2 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



【書類名】 特許願

【整理番号】 2020417

【提出日】 平成15年 1月22日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 B42F 13/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号 コクヨ株式会
社内

【氏名】 辻野 伸明

【特許出願人】

【識別番号】 000001351

【氏名又は名称】 コクヨ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100085338

【弁理士】

【氏名又は名称】 赤澤 一博

【選任した代理人】

【識別番号】 100118245

【弁理士】

【氏名又は名称】 井上 敬子

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 043362

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ファイル

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 紙葉類を綴じるための環状体を構成する綴じ具を表紙体に取り付けているファイルにおいて、
前記環状体の所定位置に一对のヒンジを設け、該ヒンジよりも先方の部位を傾倒させ得るようにしたことを特徴とするファイル。

【請求項 2】 前記環状体は、開閉可能な一对のリング片を具備し、これらリング片の先端部を係合させその間を閉じることとなるものであり、
前記リング片の一方に第一のヒンジを設けるとともに、両リング片の先端部を相対的に回転可能であるように係合させる係合構造を構築しこれを第二のヒンジとした請求項 1 記載のファイル。

【請求項 3】 前記リング片の一方の先端部には、両リング片の間を閉じたときに他方の先端部に向けて突き出ている突出部を形成し、
他方の先端部には、両リング片の間を閉じたときに前記突出部を収容する軸穴を形成して、
前記突出部と前記軸穴との凹凸係合により突出部を回転軸、軸穴を軸受けとして両リング片の先端部が相対的に回転可能となるような係合構造とした請求項 2 記載のファイル。

【請求項 4】 前記軸穴の開口縁が前記リング片の開閉方向に拡張するように、その内面の少なくとも一部を切り欠いて欠損部を形成した請求項 3 記載のファイル。

【請求項 5】 前記環状体は、綴じ具を取り付けている表紙体の取付面に対して略垂直に延伸する一对の立柱部と、これら立柱部の先端同士を連結するように湾曲若しくは屈曲するアーチ部とを具備するものであり、
前記立柱部と前記アーチ部との境界にそれぞれヒンジを設けている請求項 1、2、3 又は 4 記載のファイル。

【請求項 6】 前記立柱部の少なくとも一方が直線状に伸びるものである請求項 5 記載のファイル。

【請求項 7】前記表紙体は、内向面に綴じ具を取り付けている裏表紙と、裏表紙に連なる背表紙と、背表紙に連なり前記裏表紙と対向する表表紙とを内包しており、

前記一对のヒンジを、前記裏表紙の内向面より前記背表紙の幅寸法に略匹敵する距離離間した位置に設けている請求項 1、2、3、4、5 又は 6 記載のファイル。

【請求項 8】前記表紙体は、内向面に綴じ具を取り付けている裏表紙と、裏表紙に連なる背表紙と、背表紙に連なり前記裏表紙と対向する表表紙とを内包しており、

前記裏表紙と前記表表紙とを開閉するときに、前記環状体におけるヒンジよりも先方の部位を傾倒させていない状態では通過可能とし、かつ前記先方の部位を傾倒させた状態では通過不能とするような開口を表表紙に成形した請求項 1、2、3、4、5、6 又は 7 記載のファイル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、紙葉類を綴じ込むためのファイルに関する。

【0002】

【従来の技術】

紙葉類、言い換えるならばリフィル（替え用紙）その他種々のシート状をなすものを綴じるためのファイルは広範に流通している。そのうち、環状体を構成する綴じ具を表紙体に取り付けたいわゆるリングファイルとして、例えば下記特許文献 1、特許文献 2 に記載されているようなものが既知である。これらは、開閉可能な環状体を立ち上げている基盤部を裏表紙の内向面に接合することによってなるものである。

【0003】

【特許文献 1】特開 2002-178678 号公報

【特許文献 2】特開 2000-343867 号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上記の如きファイルにおいて、綴じ込むことができる紙葉類の最大枚数は、まず表紙体の背表紙の幅寸法により規定される。しかしながら、実際には背表紙の幅寸法に匹敵する枚数の紙葉類を綴じ込むことが可能であるわけではない。多くの場合、綴じ具の環状体の先端側即ち表表紙側は湾曲若しくは屈曲してアーチ形状をなすため、このアーチ形状よりも基端側即ち裏表紙側にある部分の寸法に応じて綴じ込み可能な枚数が規制されてしまう。さらに、環状体は開閉可能なものであることが通常であり、その開閉の位置によっても綴じ込み可能な紙葉類の枚数は制限される。そして、背表紙の幅寸法の内に収まるように環状体を形成するならば、綴じ込み可能な枚数は減殺されることとなる。勿論、環状体を十分大きくして綴じ込むことができる枚数を増大させることも可能であるが、この場合には環状体の先端側が表表紙より外方に突出し、例えば複数のファイルを並べたときに環状体の突出部分が他のファイルに干渉するというようにファイルの収納等において不具合を生じさせるおそれがある。

【0005】

以上の問題に鑑みて、本発明は、好適により多くの枚数を綴じ込むことが可能なリングファイルを提供しようとするものである。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

上述した課題を解決すべく、本発明では、紙葉類を綴じるための環状体を構成する綴じ具を表紙体に取り付けているファイルにおいて、前記環状体の所定位置に一对のヒンジを設け、該ヒンジよりも先方の部位を傾倒させ得るようにした。このようなものであるならば、環状体を大きくして綴じ込み可能な枚数を確保できるとともに、その先端側を必要に応じて折り畳めばファイルの収納等において妨げとならない。

【0007】

前記環状体が、開閉可能な一对のリング片を具備し、これらリング片の先端部を係合させその間を閉じることとなるものであるとき、前記リング片の一方に第一のヒンジを設けるとともに、両リング片の先端部を相対的に回転可能であるよ

うに係合させる係合構造を構築しこれを第二のヒンジとすれば、構造の煩雑化を避けることができる。

【0008】

より具体的には、前記リング片の一方の先端部に、両リング片の間を閉じたときに他方の先端部に向けて突き出ている突出部を形成し、他方の先端部には、両リング片の間を閉じたときに前記突出部を収容する軸穴を形成して、前記突出部と前記軸穴との凹凸係合により突出部を回転軸、軸穴を軸受けとして両リング片の先端部が相対的に回転可能となるような係合構造とすることが好ましい。

【0009】

さらに、前記軸穴の開口縁が前記リング片の開閉方向に拡張するように、その内面の少なくとも一部を切り欠いて欠損部を形成しておけば、両リング片の間を閉じる際に突出部を軸穴に容易に導くことができ、逆に両リング片を開放する際には突出部を軸穴より容易に脱離させることができる。

【0010】

また、前記環状体は、綴じ具を取り付けている表紙体の取付面に対して略垂直に延伸する一対の立柱部と、これら立柱部の先端同士を連結するように湾曲若しくは屈曲するアーチ部とを具備するものとし、前記立柱部と前記アーチ部との境界にそれぞれヒンジを設けておくならば、ヒンジの存在が紙葉類を綴じ込む際の妨げとならない。

【0011】

前記立柱部の少なくとも一方が直線状に伸びるものであるならば、該立柱部を利用して紙葉類を好適に綴じてゆける。

【0012】

前記表紙体は、内向面に綴じ具を取り付けている裏表紙と、裏表紙に連なる背表紙と、背表紙に連なり前記裏表紙と対向する表表紙とを内包するものとし、前記一対のヒンジを、前記裏表紙の内向面より前記背表紙の幅寸法に略匹敵する距離離間した位置に設けてあれば、背表紙の幅寸法に匹敵する枚数の紙葉類を綴じ込むことが可能となる。

【0013】

そして、前記裏表紙と前記表紙とを開閉するとき、前記環状体におけるヒンジよりも先方の部位を、傾倒させていない状態では通過可能とし、傾倒させた状態では通過不能とするような開口を表紙に成形するならば、表紙体を畳んで閉じた状態で環状体の先方の部位を傾倒させることにより表紙体の開成を抑止し得るものとなる。

【0014】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態を、図面を参照して説明する。図1ないし図4に示すものは、本発明の一実施形態に係るファイルである。このものは、紙葉類を綴じるための綴じ具1を、表紙体2に取り付けたものである。

【0015】

表紙体2は、例えば、裏表紙21と、裏表紙21の側縁に連なる背表紙22と、背表紙22の側縁に連なる表紙23とを内包する一体成形品である。綴じ具1は、該表紙体2の裏表紙21の内面、背表紙22の傍らに取り付けてある。なお、表紙23に形成した開口24に関しては、後述する。

【0016】

綴じ具1は、紙葉類を綴じ込む環状体を構成するものである。綴じ具1は、一対のリング片11、12と、これら両リング片11、12の先端部の間を開閉可能とする開閉機構13とを具備する。一対のリング片11、12は、閉じた状態で綴じ具1の取付面たる裏表紙21の内面より略垂直に立ち上がる平面視略U字形状をなし、環状体の主要な構成要素となる。また、一対のリング片11、12は、それぞれ別個の基板131、132より突出している。互いに別体をなす一対の基板131、132は、相対的に回転可能であるように背表紙22寄りの側縁部で結合している。これら一対の基板131、132を主体として、両リング片11、12を開閉駆動する開閉機構13を構築してある。即ち、一方の基板131がその側縁部を中心に回転して他方の基板132より離間すると両リング片11、12の先端部の間が開かれ、一方の基板131が逆に回転して他方の基板132と重なり合うと両リング片11、12の先端部の間が閉じられる。因みに、ばね等の付勢手段（図示しない）により、一方の基板131と他方の基板1

32とが離間する方向にプリロードを加えてある。基板131の回転操作は、例えば、操作レバー133を上げ下げすることを通じて行われる。但し、開閉機構13には種々の既存の機構を採用することができ、図示例には限定されない。

【0017】

図5等に応示するように、リング片の一方である第一のリング片11は、基端を一方の基板131に固定した立柱部111と、立柱部の先端より伸び出でるアーチ部112とを具備する。立柱部111は、概ね円柱状をなし、両リング片11、12の間を閉じた状態で裏表紙21の内向面に対して略垂直に（厳密には、平面視背表紙22寄りに若干傾いて）延伸する。アーチ部112は、その断面形状が円形をなす、湾曲した弓形の部材である。立柱部111の先端とアーチ部112の基端とは、相欠きとなっている。この相欠き構造において立柱部111とアーチ部112とが重なり合う部位を貫通するピン113を挿入して、立柱部111の先端とアーチ部112の基端とを連結する。立柱部111の先端とアーチ部112とは、ピン113を回転軸として相対的に回転可能である。即ち、ピン113を介在させることによって第一のヒンジを構築している。ピン113の軸方向は、両リング片11、12の間を閉じた状態で裏表紙21の内向面に対して略平行となる。結果として、図7等に応示するように、アーチ部112は、立柱部111と略同一平面上に存在し立柱部111とアーチ部112とで平面視J字形状をなすような起立位置Rと、該起立位置Rより約90度回転し裏表紙21の内向面に対して略平行となるような傾倒位置Fとの間で変位可能となる。

【0018】

リング片の他方である第二のリング片12は、基端を他方の基板132に固定した立柱部121を具備する。立柱部121は、概ね円柱状をなし、両リング片11、12の間を閉じた状態で裏表紙21の内向面に対して略垂直に直線状に延伸する。第二のリング片12の立柱部121は、第一のリング片11の立柱部121の側方、反背表紙22側に位置する。通常、紙葉類を該ファイルに綴じ込む際には、対象となる紙葉類に第二のリング片12の立柱部121を挿して通し、しかる後に両リング片11、12の間を閉じるようにする。

【0019】

図6に示すように、第一のリング片11のアーチ部112の先端は、その一方の側端を切り欠くことによって相対的に延伸方向に突出させた突端112aを有する。第二のリング片12の立柱部121の先端もまた、その側端を切り欠くことによって相対的に延伸方向に突出させた突端121aを有する。これらのうち、一方の突端（図示例では、アーチ部112の先端にある突端112a）の側面に、略円柱状をなす突出部112bを形成する。但し、突出部112bの形状は円柱状には限られず、例えば円錐状をなすようなものであっても構わない。また、突出部112bは、反背表紙側に向けて突出していることが好ましい。並びに、他方の突端（図示例では、立柱部121の先端にある突端121a）の側面に、前記突出部112bを収容し得る軸穴121bを形成する。因みに、本実施形態では、他方の突端121aに形成した軸穴121bの開口縁が両リング片11、12の開閉方向に拡張するように、その内面の少なくとも一部を切り欠いて欠損部121cを形成してある。図示例では、立柱部121側の突端121bに形成した軸穴121bの内周の所定部位より立柱部121の延伸方向に、言い換えるならばアーチ部112のある方に向けて傾斜するテーパ状の欠損部121cを形成してある。しかして、両リング片11、12の間を閉じるとき、アーチ部112の先端がリング片11、12の開閉方向に沿って移動して立柱部121の先端に近接する。その際、アーチ部112の先端にある突端112aと立柱部121の先端にある突端121aとが重なり合う状態となり、一方の突端112aに形成した突出部112bが他方の突端121aに形成した軸穴121bの内に収容される。このように突出部112bと軸穴121bとが凹凸係合すると、第一のリング片11の先端部となるアーチ部112の先端と、第二のリング片12の先端部となる立柱部121の先端とが、突出部112bを回転軸、軸穴121bを軸受けとして相対的に回転可能となる。即ち、突出部112bと軸穴121bとの凹凸係合によって構築した係合構造を第二のヒンジとしている。突出部112bの軸方向及び軸穴121bの軸心方向は、両リング片11、12の間を閉じた状態で裏表紙21の内向面に対して略平行となる。結果として、アーチ部112は、立柱部121と略同一平面上に存在するような起立位置Rと、該起立位置Rより約90度回転し裏表紙21の内向面に対して略平行となるような傾倒位置

Fとの間で変位可能となる。

【0020】

上記のように、一对の立柱部111、121の先端同士をアーチ部112で連結して環状体を構成している。そして、環状体におけるヒンジより先方の部位、即ちアーチ部112は、必要に応じて傾倒させ得るものとなっている。また、両リング片11、12の間を閉じた状態で、一对の立柱部111、121の先端がそれぞれ裏表紙21の内向面より背表紙22の幅寸法に略匹敵する距離だけ離間した位置にあるように、これら立柱部111、121の形状、寸法等を設定している。つまり、両リング片11、12の間を閉じた状態では、一对のヒンジが、裏表紙21の内向面より背表紙22の幅寸法に略匹敵する距離だけ離間した位置にある。

【0021】

加えて、本実施形態では、図8に示すように、表表紙23に開口24を設けている。この開口24は、起立位置Rにあって傾倒させていない状態でのアーチ部112の正面視形状を包含するように、かつ傾倒位置Fにあって傾倒させた状態でのアーチ部112の正面視形状の少なくとも一部を包含しない形状に成形してある。即ち、アーチ部112を、傾倒させていない状態では開口24をスムーズに通過可能とする一方、傾倒させた状態ではスムーズに通過できないようにしている。より具体的には、傾倒させた状態でのアーチ部112の正面視形状に概ね対応する開口縁の一部を内方に張り出させて舌片241を形成しており、この舌片241が傾倒させたアーチ部112の所定部位に当たってその通過を阻む。舌片241は、例えば、開口24における反背表紙22側の領域に形成する。このような構成により、アーチ部112を傾倒させていない状態で表紙体2を折り畳んで裏表紙21と表表紙23とを接近させしかる後にアーチ部112を傾倒させることで、表紙体2が不用意に開いてしまうことを有効に防止することができる。勿論、閉じ込めている紙葉類の閲覧や紙葉類の閉じ込みあるいは取り外しの際には、アーチ部112を起立位置Rまで回転させてから表表紙23を開くようにすればよい。

【0022】

本実施形態によれば、紙葉類を綴じるための環状体を構成する綴じ具 1 を表紙体 2 に取り付けているファイルにおいて、前記環状体の所定位置に一对のヒンジを設け、該ヒンジよりも先方の部位であるアーチ部 112 を傾倒させ得るようにしたため、環状体を大きくして、即ち立柱部 111、121 をより長くして綴じ込み可能な枚数を確保できるとともに、その先端側にあるアーチ部 112 を必要に応じて折り畳めばファイルの収納等において妨げとならない。

【0023】

前記環状体が、開閉可能な一对のリング片 11、12 を具備し、これらリング片 11、12 の先端部を係合させその間を閉じることとなるものであり、前記リング片の一方に第一のヒンジを設けるとともに、両リング片 11、12 の先端部を相対的に回転可能であるように係合させる係合構造を構築しこれを第二のヒンジとしたため、構造の煩雑化を避けることができる。

【0024】

前記リング片の一方の先端部に、両リング片 11、12 の間を閉じたときに他方の先端部に向けて突き出ている突出部 112b を形成し、他方の先端部には、両リング片 11、12 の間を閉じたときに前記突出部 112b を収容する軸穴 121b を形成して、前記突出部 112b と前記軸穴 121b との凹凸係合により突出部 112b を回転軸、軸穴 121b を軸受けとして両リング片 11、12 の先端部が相対的に回転可能となるような係合構造としたため、両リング片 11、12 の先端部の間を閉じるための係合構造と第二のヒンジとを一体のものとすることができ、構造の簡単化や部品点数の削減につながる。

【0025】

さらに、前記軸穴 121b の開口縁が前記リング片 11、12 の開閉方向に拡張するように、その内面の少なくとも一部を切り欠いて欠損部 121c を形成してあるため、両リング片 11、12 の間を閉じる際に突出部 112b を軸穴 121b に容易に導くことができ、逆に両リング片 11、12 を開放する際には突出部 112b を軸穴 121b より容易に脱離させることができる。

【0026】

また、前記環状体は、綴じ具 1 を取り付けている表紙体 2 の取付面に対して略

垂直に延伸する一对の立柱部 111、121 と、これら立柱部 111、121 の先端同士を連結するように湾曲若しくは屈曲するアーチ部 112 とを具備するものとし、前記立柱部 111、121 と前記アーチ部 112 との境界にそれぞれヒンジを設けてあるため、ヒンジの存在が紙葉類を綴じ込む際の妨げとならない。

【0027】

前記立柱部の少なくとも一方である第二のリング片 12 の立柱部 121 は直線状に伸びるものであり、該立柱部 121 を利用して紙葉類を好適に綴じてゆける。

【0028】

前記表紙体 2 は、内向面に綴じ具 1 を取り付けている裏表紙 21 と、裏表紙 21 に連なる背表紙 22 と、背表紙 22 に連なり前記裏表紙 21 と対向する表表紙 23 とを内包するものであり、前記一对のヒンジを、前記裏表紙 21 の内向面より前記背表紙 22 の幅寸法に略匹敵する距離離間した位置に設けてあるため、背表紙 22 の幅寸法に匹敵する枚数の紙葉類を綴じ込むことが可能となる。

【0029】

そして、前記裏表紙 21 と前記表表紙 23 とを開閉するときに、前記環状体におけるヒンジよりも先方の部位であるアーチ部 112 を、傾倒させていない状態では通過可能とし、傾倒させた状態では通過不能とするような開口 24 を表表紙 23 に成形してあるため、表紙体 2 を畳んで閉じた状態で環状体の先方の部位を傾倒させることにより表紙体 2 の開成を抑止し得るものとなる。

【0030】

なお、本発明は以上に詳述した実施形態に限られるものではない。例えば、リング片の立柱部、アーチ部の形状は図示例のようなものには限られない。アーチ部が屈曲しているようなものとする 것도可能である。また、ヒンジの具体的な態様も、上記実施形態におけるようなものには限られない。

【0031】

その他各部の具体的な構成は上記実施形態には限られず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。

【0032】

【発明の効果】

以上に詳述した本発明によれば、好適により多くの枚数を綴じ込むことが可能なリングファイルを実現できる。また、既存のリングファイルでは、環状体の先方の部位、言い換えるならばアーチ部の嵩を加味して背表紙の幅寸法を定める必要があったが、該アーチ部を傾倒可能としたことにより背表紙の幅寸法をより小さくすることができ、その結果紙葉類の収容効率を高めた、コンパクトなファイルを作ることが可能となる。

【図面の簡単な説明】**【図 1】**

本発明の一実施形態におけるファイルの全体斜視図。

【図 2】

同部分斜視図。

【図 3】

同部分側面図。

【図 4】

同部分平面図。

【図 5】

綴じ具が構成する環状体の平面図。

【図 6】

環状体の部分断面図。

【図 7】

ファイルの部分平面図。

【図 8】

表表紙に成形すべき開口を示す部分正面図。

【符号の説明】

1…綴じ具

1 1、1 2…リング片

1 1 1、1 2 1…立柱部

1 1 2…アーチ部

1 1 2 b…突出部

1 2 1 b…軸穴

1 2 1 c…欠損部

2…表紙体

2 1…裏表紙

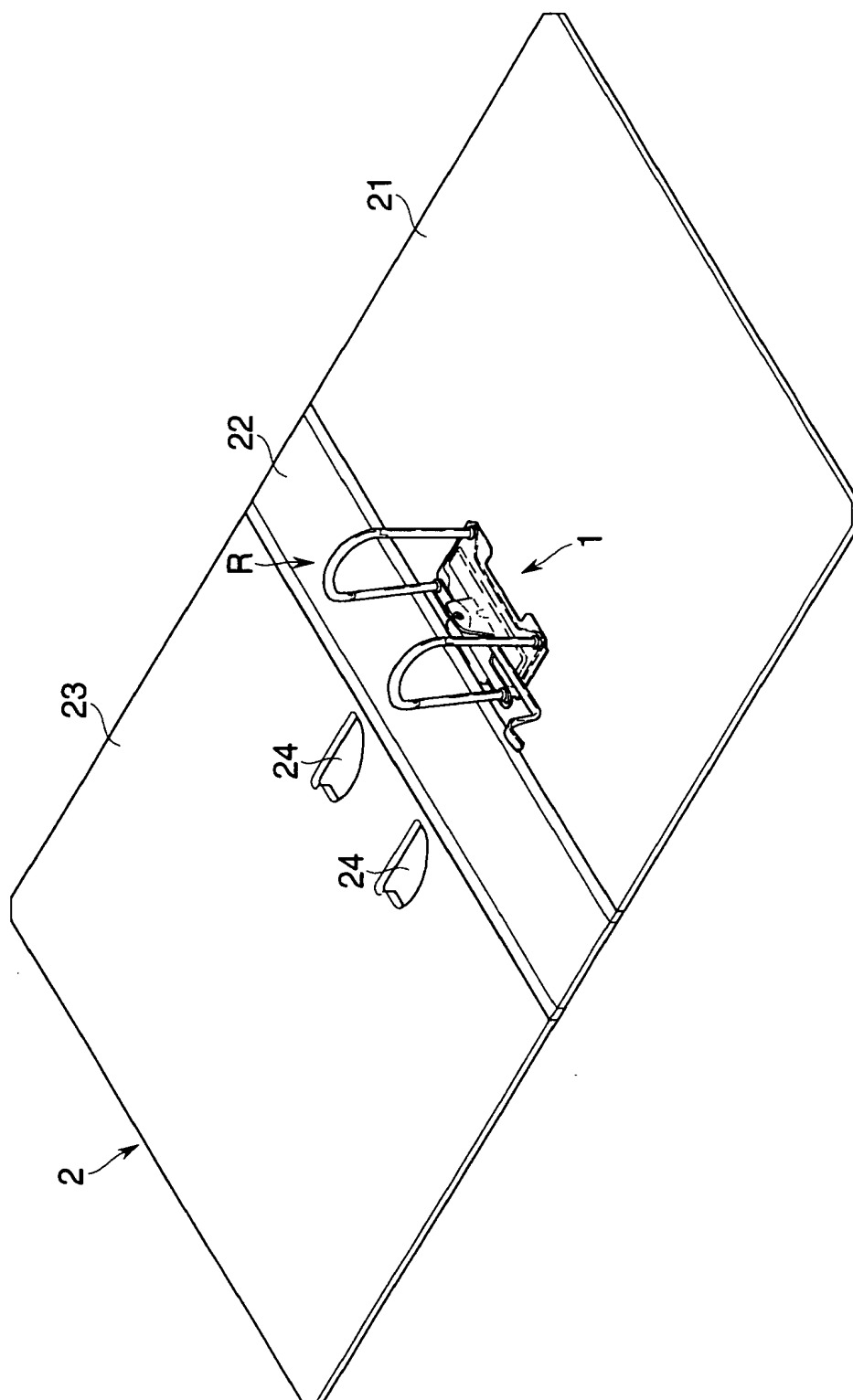
2 3…表表紙

2 4…開口

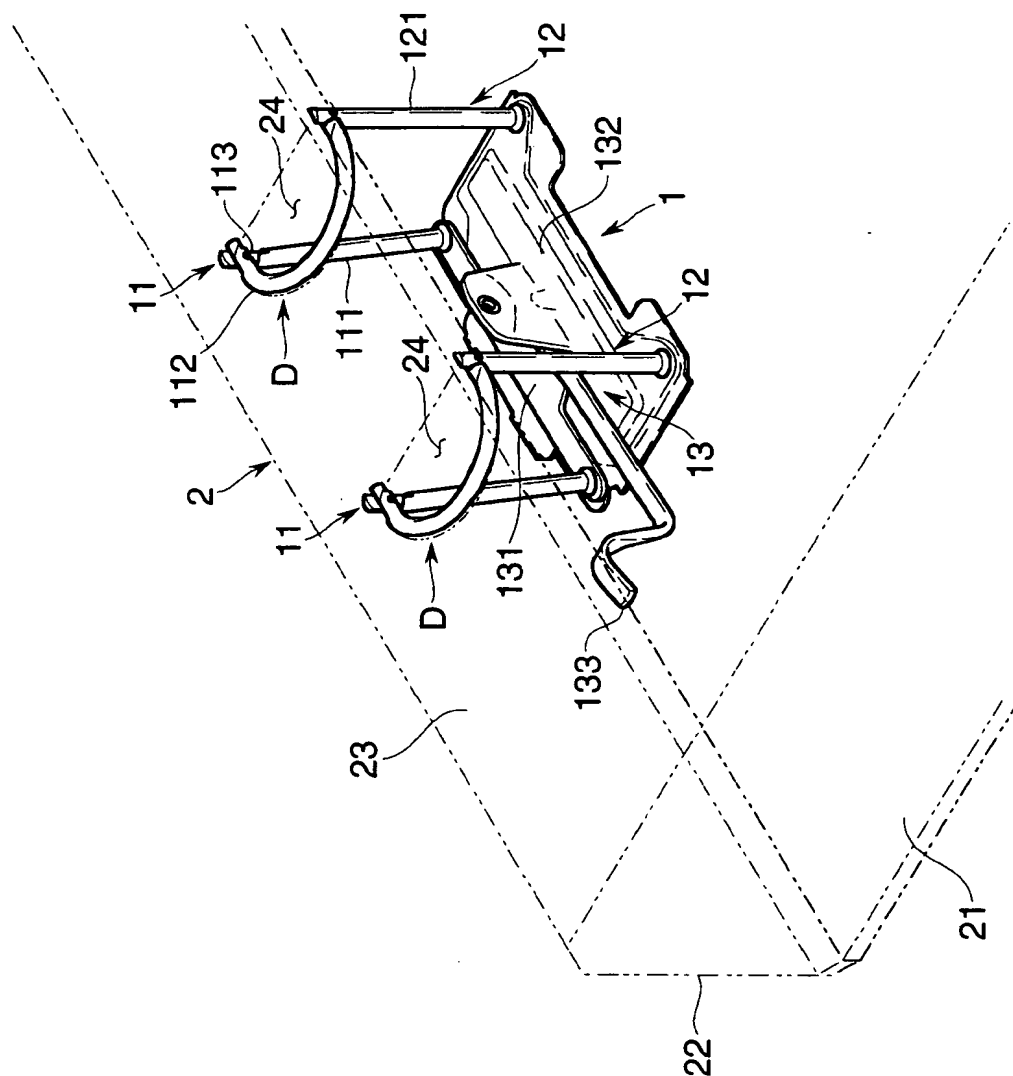
【書類名】

図面

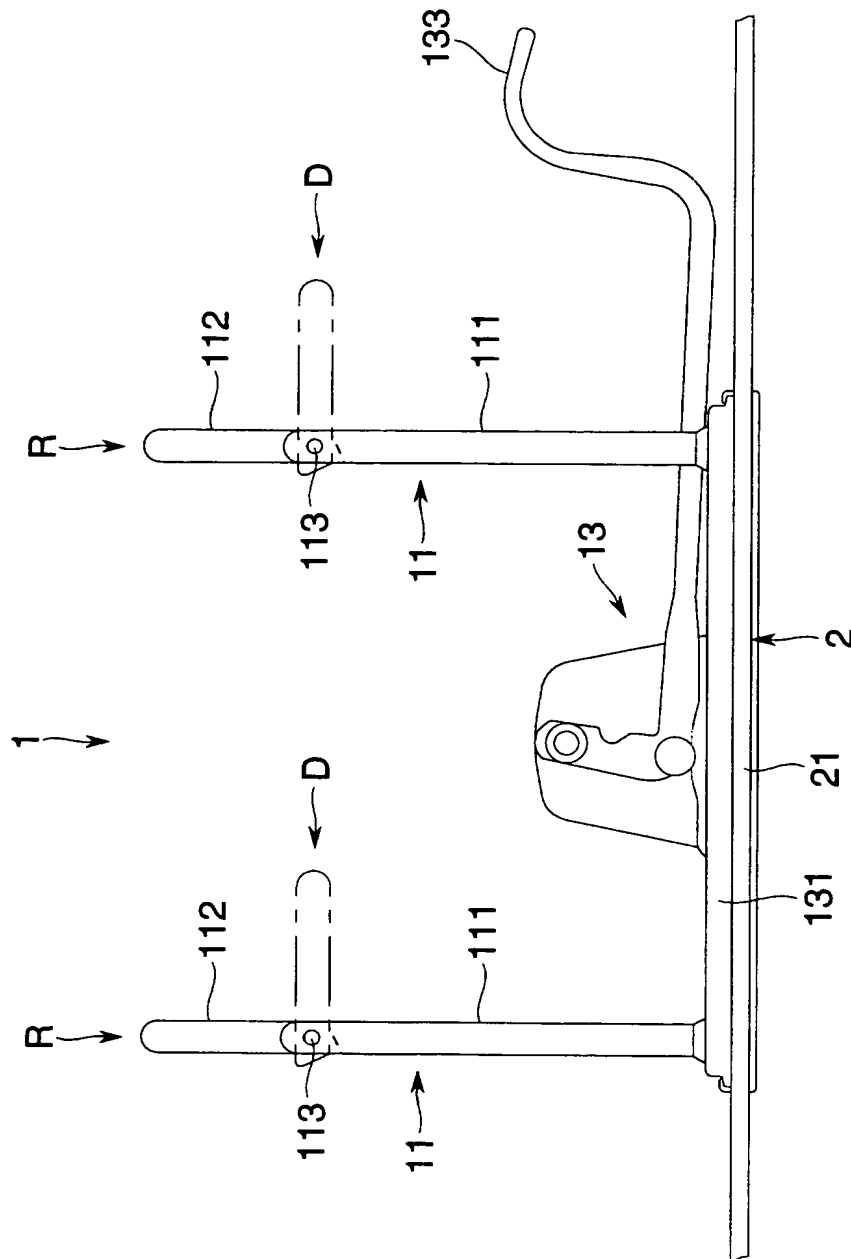
【図 1】



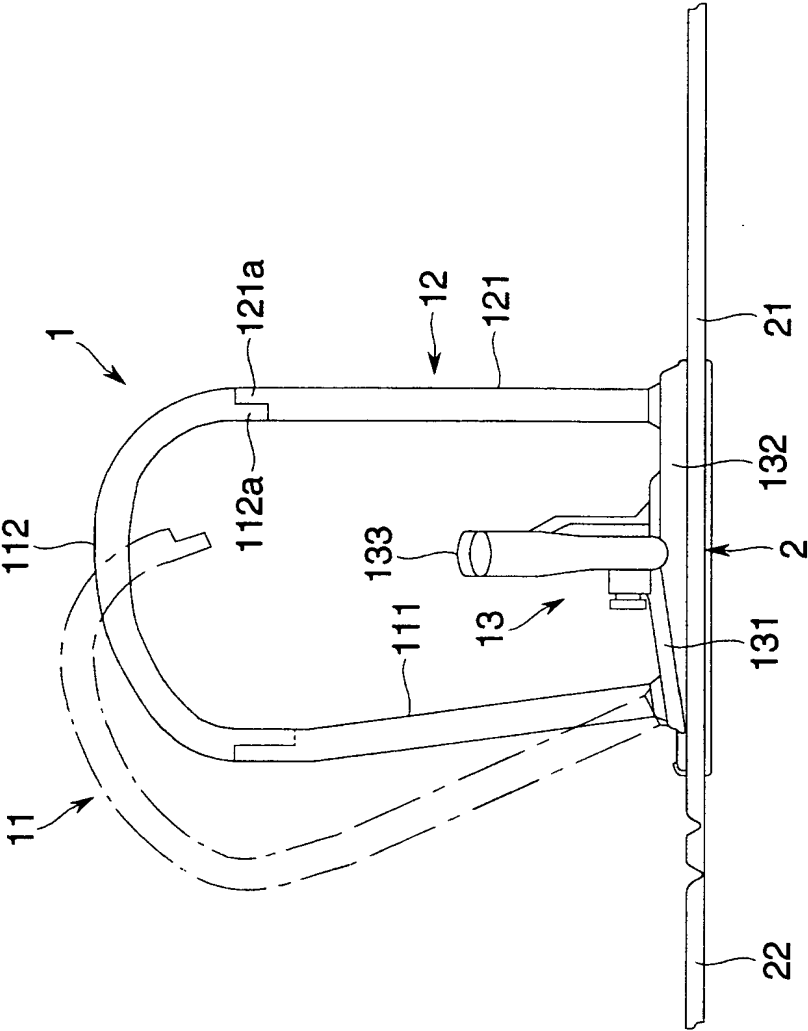
【図 2】



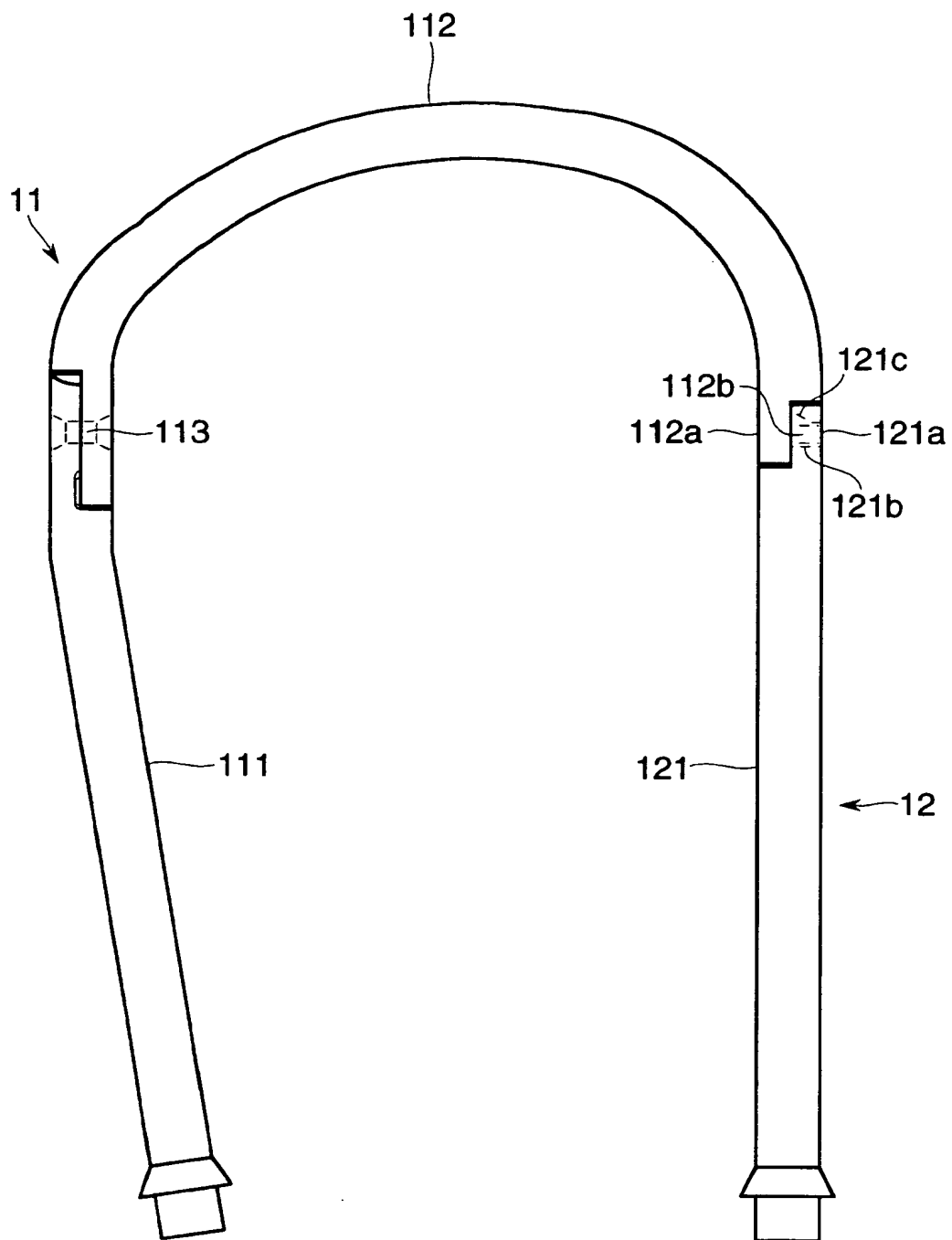
【図 3】



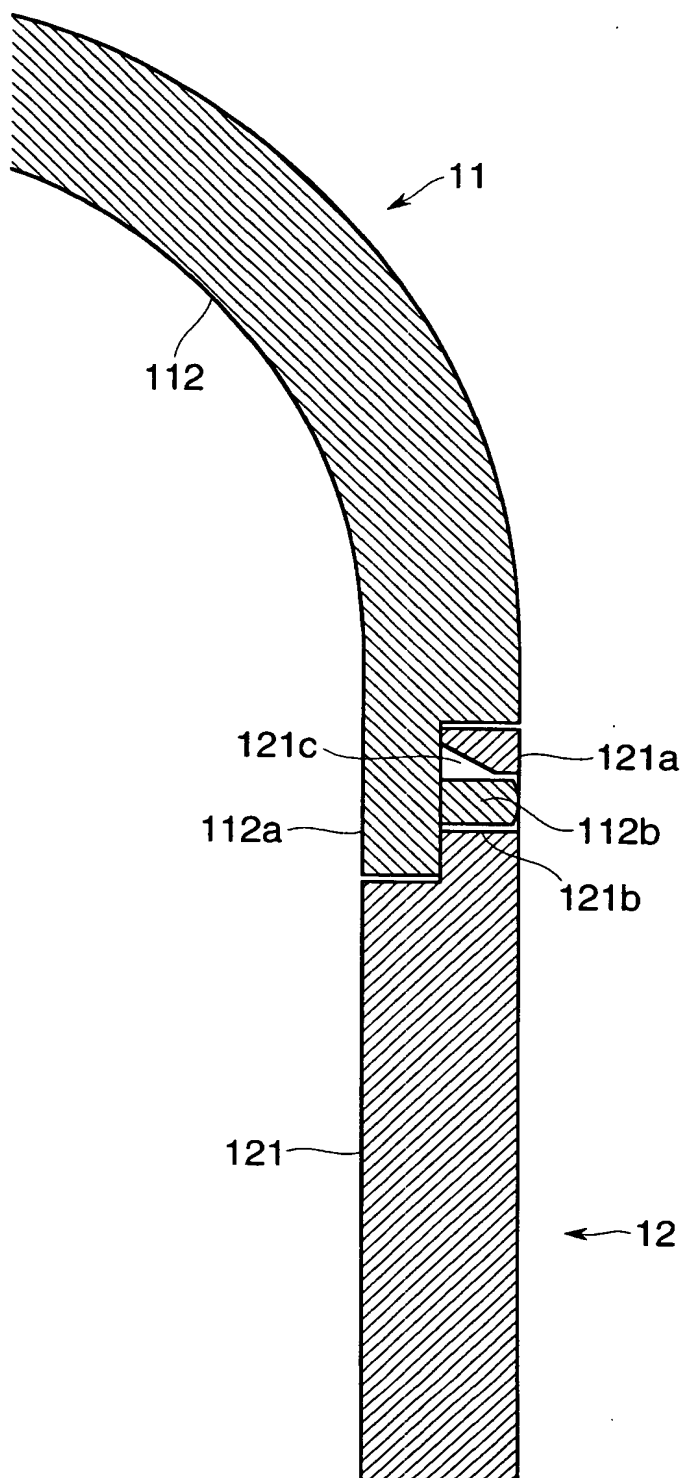
【図 4】



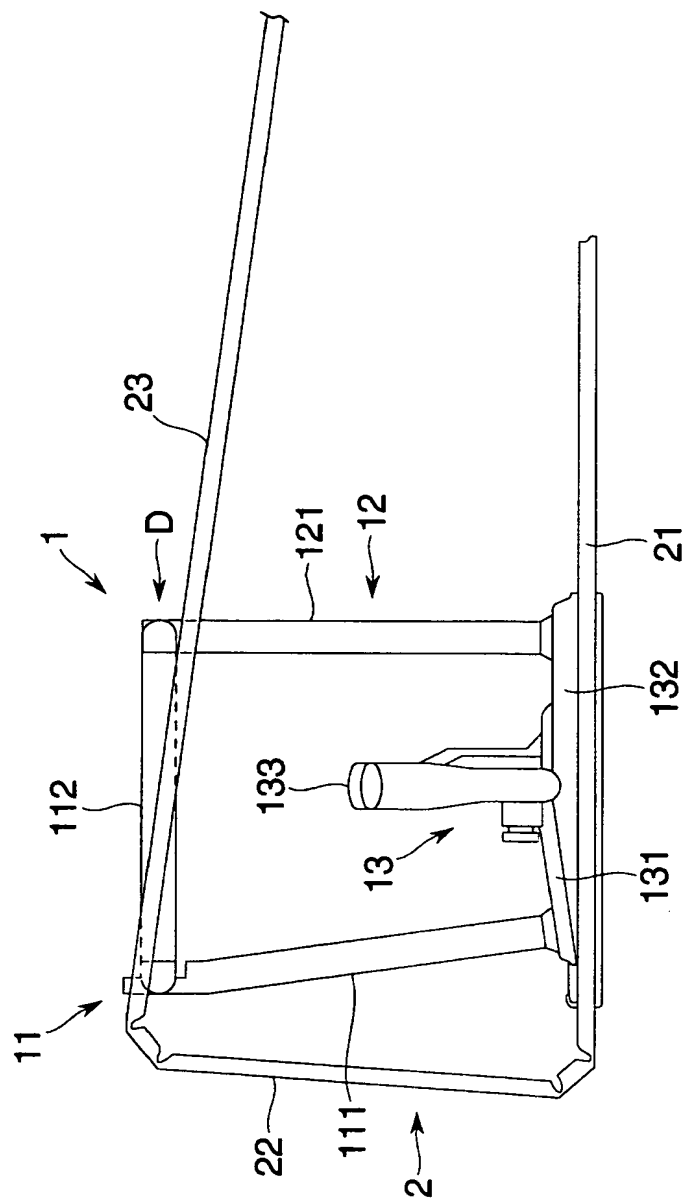
【図 5】



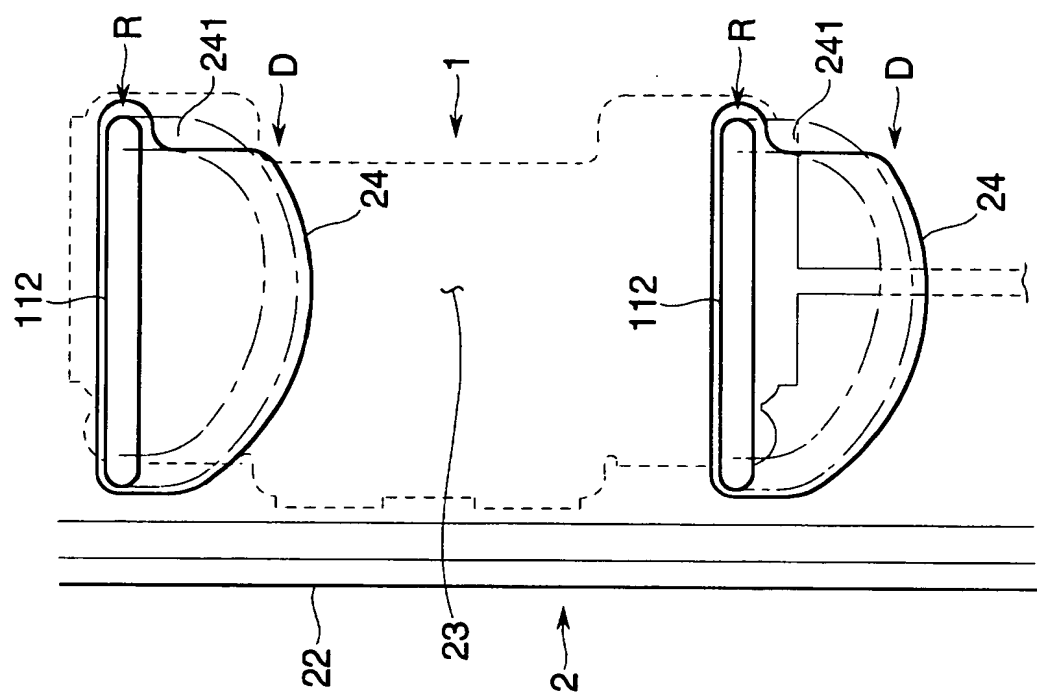
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 好適により多くの枚数を綴じ込むことが可能なリングファイルを提供する。

【課題を解決するための手段】 紙葉類を綴じるための環状体を構成する綴じ具 1 を表紙体 2 に取り付けているファイルにおいて、前記環状体の所定位置に一对のヒンジを設け、該ヒンジよりも先方の部位 1 1 2 を傾倒させ得るようにした。

【選択図】 図 2

特願 2 0 0 3 - 0 1 4 0 6 7

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 1 3 5 1]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 3 日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府大阪市東成区大今里南 6 丁目 1 番 1 号

氏 名

コクヨ株式会社